全日本学生柔道優勝大会ルール上のポイント

○試合時間：男子・女子ともに４分

○技の判定１：「一本」、「技あり」、「有効」

○技の判定２：「技あり」2つで「合わせて一本」

○抑え込みの判定：講道館の技名称にある抑込技で、相手に覆い被さり圧力を掛け制していること

５秒 →「有効」／ 10秒 →「技あり」／ 20秒 →「一本」

○反則基準１：「指導」×3回　→　「反則負け」（「指導」×2回まで　→　勝敗の基準としない）

○反則基準２：内股上部（両脚の付け根の水平ライン）より下に

腕や手で引っ掛けたり、脚を抱えたり、下穿きを掴んだり、触れる行為　→　「指導」

○反則基準３：手と腕で輪を作って抱き着く行為（ベアハグ）　→　「指導」

○反則基準４：取が攻撃の際に、投げる意思がない、組み手を持たずに攻撃する、すぐに組み手を放す、相手のバランスを崩さない状態で繰り返し攻撃を行う、脚を受けの両脚の間に入れて攻撃の可能性を防ぐ、現実的に投げる可能性がない場合、偽装攻撃　→　「指導」

○反則基準５：故意により試合場から出た場合　→　「指導」

どちらかが、片脚だけでも場内にいて投技が施されれば、両者が完全に場外に出ても技の継続が認められ、技が決まればスコア、場外にいる側が返し技を施しても技の効果が認められる。

○反則基準６：これまで禁止されていた、逆背負投、ユージングザヘッド（頭部を使っての投技）、ヘッドディフェンス（頭部を使っての防御）、上衣の袖の中に指を入れて組手を取る行為、寝姿勢において相手の下穿きの裾の中に指を入れる行為は認められる。→ ノーペナルティ

○判定基準：「有効」以上もしくは「反則負け」

○勝敗決定１：勝者の多い方の勝ち（勝者同数の場合は内容差で決定）

○勝敗決定２：上記「勝敗の決定１」の全てにおいて同一の場合

①男子・女子二部→代表選手を選出し、4分間の代表戦を実施。代表戦の4分間で勝敗が

決しない場合はゴールデンスコアにより勝敗を決する。

 ②女子一部→「引き分け」の階級の中から抽選で代表選手を選出し、ゴールデンスコアにより

代表戦を実施　※代表戦は、スコアをリセットして実施

以上

全日本学生柔道体重別選手権大会ルール上のポイント

○試合時間：男子・女子ともに４分

○技の判定１：「一本」、「技あり」、「有効」

○技の判定２：「技あり」2つで「合わせて一本」

○抑え込みの判定：講道館の技名称にある抑込技で、相手に覆い被さり圧力を掛け制していること

５秒 →「有効」／ 10秒 →「技あり」／ 20秒 →「一本」

○反則基準１：「指導」×3回　→　「反則負け」（「指導」×2回まで　→　勝敗の基準としない）

○反則基準２：内股上部（両脚の付け根の水平ライン）より下に

 腕や手で引っ掛けたり、脚を抱えたり、下穿きを掴んだり、触れる行為　→　「指導」

○反則基準３：手と腕で輪を作って抱き着く行為（ベアハグ）　→　「指導」

○反則基準４：取が攻撃の際に、投げる意思がない、組み手を持たずに攻撃する、すぐに組み手を放す、相手のバランスを崩さない状態で繰り返し攻撃を行う、脚を受けの両脚の間に入れて攻撃の可能性を防ぐ、現実的に投げる可能性がない場合、偽装攻撃　→　「指導」

○反則基準５：故意により試合場から出た場合　→　「指導」

どちらかが、片脚だけでも場内にいて投技が施されれば、両者が完全に場外に出ても技の継続が認められ、技が決まればスコア、場外にいる側が返し技を施しても技の効果が認められる。

○反則基準６：これまで禁止されていた、逆背負投、ユージングザヘッド（頭部を使っての投技）、ヘッドディフェンス（頭部を使っての防御）、上衣の袖の中に指を入れて組手を取る行為、寝姿勢において相手の下穿きの裾の中に指を入れる行為は認められる。→ ノーペナルティ

○判定基準：「有効」以上もしくは「反則負け」

○勝敗基準１：両者にスコアがない、もしくはスコアが同等、もしくは「指導」×２まで　→　「引き分け」

○勝敗基準２：「引き分け」の場合　→　直ちにゴールデンスコアによる延長戦を実施

※延長戦は、それまでのスコアおよび罰則を反映させて実施

以上

全日本学生柔道体重別団体優勝大会ルール上のポイント

○試合時間：男子・女子ともに４分

○技の判定１：「一本」、「技あり」、「有効」

○技の判定２：「技あり」2つで「合わせて一本」

○抑え込みの判定：講道館の技名称にある抑込技で、相手に覆い被さり圧力を掛け制していること

５秒 →「有効」／ 10秒 →「技あり」／ 20秒 →「一本」

○反則基準１：「指導」×3回　→　「反則負け」（「指導」×2回まで　→　勝敗の基準としない）

○反則基準２：内股上部（両脚の付け根の水平ライン）より下に

腕や手で引っ掛けたり、脚を抱えたり、下穿きを掴んだり、触れる行為　→　「指導」

○反則基準３：手と腕で輪を作って抱き着く行為（ベアハグ）　→　「指導」

○反則基準４：取が攻撃の際に、投げる意思がない、組み手を持たずに攻撃する、すぐに組み手を放す、相手のバランスを崩さない状態で繰り返し攻撃を行う、脚を受けの両脚の間に入れて攻撃の可能性を防ぐ、現実的に投げる可能性がない場合、偽装攻撃　→　「指導」

○反則基準５：故意により試合場から出た場合　→　「指導」

どちらかが、片脚だけでも場内にいて投技が施されれば、両者が完全に場外に出ても技の継続が認められ、技が決まればスコア、場外にいる側が返し技を施しても技の効果が認められる。

○反則基準６：これまで禁止されていた、逆背負投、ユージングザヘッド（頭部を使っての投技）、ヘッドディフェンス（頭部を使っての防御）、上衣の袖の中に指を入れて組手を取る行為、寝姿勢において相手の下穿きの裾の中に指を入れる行為は認められる。→ ノーペナルティ

○判定基準：「有効」以上もしくは「反則負け」

○勝敗決定１：勝者の多い方の勝ち（勝者同数の場合は内容差で決定）

○勝敗決定２：上記「勝敗の決定１」の全てにおいて同一の場合

→　「引き分け」の階級の中から抽選で代表選手を選出し、ゴールデンスコアにより代表戦を実施。　※代表戦は、スコアをリセットして実施

以上